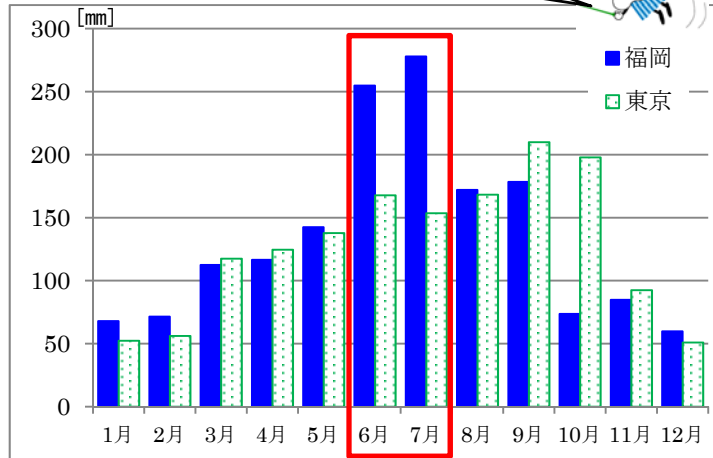


「梅雨と災害」

梅雨

梅雨とは雨やくもりの日が多くなる季節のことです。

福岡(左側の棒グラフ)では、6月と7月は他の月の2倍くらい雨がふっているね



平成24年福岡と東京の月別雨量

6月と7月を見ると(上の図の四角)、東京に比べて、福岡はたくさん雨がふっています。このように、梅雨の雨は、西日本のほうが多い傾向があります。

梅雨とは、春から夏へ季節が移り変わるとき、日本や中国など(東アジア地域)で雨が多くなる期間のことです。福岡県などの九州北部地方は、6月と7月が梅雨の期間にあたり、毎年だいたい同じ時期に梅雨を迎えます。気象台は、それまでの天候とその先一週間の予報をもとに、「〇月〇日頃、梅雨入りしたとみられます」という微妙な表現で梅雨入りを発表します。

これは、梅雨が他の季節と同じように、決まった日から始まるのではなく、徐々に移り変わっていくからです。



2014年	5月7日	水曜日
平成26年		
福岡管区气象台	〒810-0052	
防災調査課	福岡市中央区大濠 1-2-36	
電話	092-725-3614 (記事) 092-725-3600 (天気相談所)	
メール	fk-kanku@met.kishou.go.jp (ご意見・ご要望はこちらまで)	

「お天気 Q&A」

Q:「はれ」と「くもり」の違いは?

A:簡単そうですが、難しい質問かもしれません。気象庁では、空を10等分して、空全体に占める雲の量が8割以下を「はれ」、9割以上を「くもり」と決めています。

「はれ」の中でも、雲の量が空全体の1割以下になると「快晴」と呼びます。しかし、天気予報では、「快晴」も含めて「はれ」で発表しています。

気象情報へのアクセス

災害から身を守ろう	検索	
雨量計の作成	検索	

梅雨は大雨による災害が多くなります

災害

九州で過去に発生した大きな災害は梅雨に集中しています(台風を除く)。

昔から梅雨は、飲み水や農業に必要な恵みの雨と同時に、災害をもたらす雨にもなりました。特に九州では雨のふる量が多くなるため、梅雨入り前のこの時期から、災害への備えが必要です。



白文字は気象庁が命名した災害(その他は地元などにおける災害の呼び名)
※大きな災害が発生した大雨は豪雨と呼ばれます。

平成24年九州北部豪雨では、矢部川の堤防がこわれて(図の丸印)洪水が発生しました。

写真提供 九州地方整備局

- 注意**
- 九州北部では、6月下旬~7月中旬に、大雨が最も発生しやすい!
 - 1ヶ月分くらいの雨(約250mm)が1日でふることもあります。
 - 大雨のときに危険になりそうな場所を周りの人と話し合っておきましょう。
 - 雨がふったら危険な場所(山や崖、川のそばなど)には近づかない。

1日の雨量を測る方法

1日の雨量を測る、とても簡単な方法があります。右の図のように上から下まで同じ大きさの容器(ペットボトル等)を外に置いて、毎日決まった時間に、たまった雨の深さを「ものさし」で測ることで。

1日に250mmの雨だとひざの下くらいまでの深さになります。これが福岡県に広くふったのが平成24年7月九州北部豪雨でした。

